

成果報告(ポスター)

2013 年度助成

(実践期間：2014 年4月1日～2015 年12月31日)

タイトル	子どもの自然とのかかわり		
所属機関	伊勢原八雲幼稚園	役職 代表者 連絡先	学校長 長塚 益男 0463—93—4950



実践の目的：	近年、普段の生活ではあまり経験しなくなった自然とのかかわりを多く持つための環境づくりを行い、子どもたちが自ら自然を感じ、かかわろうとする気持ちを育てる。
実践の内容：	土山作りを考えた当初は、業者に全てをお願いし、出来上がった土山で子ども達が遊ぶ計画を考えていたが、子どもたちと一緒に土山作りをすることにした。土が運ばれ、土山作りを保育者が始めると、早速『手伝いたい』と柄の長いスコップを持って子ども達が次々に集まり、土山作りがスタートした。土を高く積み上げる子や土の中から大小の塊を探し出すなどの化石集めごっこ、多くの子が土に興味を示した。土山に土管を設置する前には、大きな土山を使ってダイナミックにどろんこ遊びを行った。子ども達と約1年間かけて土山を完成させていったが、その間さまざま形を変える土山を通して、泥団子作りや工事ごっこ、かくれんぼや高オニなど鬼ごっこに使用されるなど、さまざまな遊びが展開された。
実践の成果とその訴求点：	今回の2年間の実践において、汚れることへの抵抗がある子や保護者への理解をテーマ設定の背景に挙げた。まず、子どもが自然とかかわる為には、環境(土山を作ること)を変化させることが、きっかけになると考え、子ども達と一緒に土山づくりを行った。土山作りを通して子ども達は、土の塊を潰したり、固めたり、集めたりと、土への興味関心も高め、土の性質を遊びながら学んでいった。これまで、汚れることを嫌がっていた子も、友だちが楽しそうに土山作りを行う姿を見ることで自分もやってみようとして一歩を踏み出すきっかけとなった。また、自分たちで作っている大きな土山を使ってのどろんこ遊びでは、心を解放させ、普段かかわりの少ない友だちとも泥を付け合って遊ぶなど、汚れることの抵抗なく遊ぶことができた。日頃の園庭で遊ぶ姿も実践前と実践後では、まったく異なり、土や水を用いて、手や足を真っ黒にししながら、さまざまな遊びを考えながら楽しんでいる。保護者への理解は、学年ごとのカメラを購入し、子どもの様子をHPに載せ、活動の様子を見て頂くことで、保護者理解が深まっていったように感じる。活動を進めていく中で保育者は、子ども達が自らかかわりたくなるような環境や活動、そして、子ども達とのかかわり方を考えるようになり、保育室の環境の見直しを行うなど、保育者の意識改革に繋がった。